

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

〜イレギュラーだけでは終わらせない〜(BB)

【作者名】

来栖彼方

【あらすじ】

とある事情から転生者として物語の世界で生きていたウチに神様からの指令が下りた。

それは『ちよつとマグメルに逝ってきてよ』とのことだった……

転生先でも転生(?)することになるなんて!?と思っていたのもつかの間、黒い空間に落とされるウチ……機体はアセン自由なんだろうなあ？

少女が大好き過ぎて神様に転生する際に女にしてくれといったのに男のまんまなキャラブレまくり主人公がついにボーダーブレイクの世界に飛ばされる！

ヒストリカ等からキャラがでるけど……まあ、基本オリキャラです
なのであしからず

第0話

一夏たちとゲーセンに行った日の夜、ウチはメンドクサイ相手に会っていた……いや、会うというよりは召喚されているのか？

「とりあえず何用だよ。」

神相手に敬意もへったくれない、転生するときのミスやなんやか
らたった今気持ちよく寝ていた所を無理やり起こされた(意識だけが
覚醒してるだけだが)のだからしょうがない。

『いや、寝てる所起こしたのは悪いけど起きてる時に呼びだして、君
の本体が道のご真ん中でポーっとなつ立つよりはマシでしょ？』

「だったら寝てる時も起きてる時も呼ばないでくれ。」

『いやいや何を言っんだい君は……まあ、こんなこと言っても時間
と精神の無駄だからさっさと本題に進めさせてもらっよ。』

簡単に言えば、他の世界観に転生してほしいんだ。』

「ちよっつと待て。」

それはつまりこの世界からウチが消えるかなにかするってことか
」？

それは困る……やっとな鈴ちゃんが転入してきたり皆と仲良くなっ
てきたばっかだったのにわかれだなんて……てか、まだ一巻も終わって
ないんだぞ、それなのに終了なんて ぁまりにもあんなりだあゝ

『そうは言っていないだろ？あまり解をいそぎすぎるのはよくないぞ。』

まあ、転生するといっても君が寝てる間だけ意識を飛ばすような感
じだし、転生させるのを週末だけに限定すると、精神的な疲労がで
ないように力をつかうつもりだから安心してくれ。』

そう言う神には不安しかない……だって前科あるし。

『まあ、バイトだと思ってくれればいい……給料はでないんだけどな。』

HAHAHAと笑う神様に顔をぶん殴ってやりたいができない……できるよつならもうやってるし、こいつに対してはもうあきらめてる。

だからといっちゃあなんだが、この指令も受けることにはした。

「とりあえずは理解したが、一体ウチは何をしにいくんか？」

『特にないよ。』

イマコイツナンテイッタ？

「特にないってどーゆーことだよ!?何をしにいけばいいんだよ?」

『まあまあ落ち着いてくれって……特に無いっていったがそれはアレだ、目標はあるけどそのやりかたは指定しないってことだから。』

目標は人類の全滅を防ぐ事だ。これさえやってくれるなら大抵のことはなにをやっても許そう。』

「やけに大仰なミッションだな……いったいなにがもくてきなんだ?」

『ああ、それは僕にもわからんな、他のヤツが担当だったから。』

じゃあそいつんどこがやれよ!とは言わない、なんかあってこちらにまわってきたのだろうし、どちらにするウチはもうやるってきめたんだからな。

「OKわかった、なんか能力とかはどうなんだ？」

『うん、それなんだけど……AMSをもちいた機体の操縦が可能になるのとプラスチックの製造等で必要になると思われる知識一式でどうよっ』

「それでいい。AMSってことだがACがでてくるわけではないのだろっ？」

『もちろん！さらにAMSが使えるのも君の機体だけだしね。』

まあ、機体は現地調達してもらっただけぞわ。』

「わかった。今すぐ転生するわけじゃないんだろ？もう寝たいんだが……」

『H A H H A……君はぶれないねえ。』

まあ、今すぐ飛んでもらっわけじゃないのは確かだし、今回はもう終わりにするかね。

それじゃあ、また週末。』

意識が遠のいていく、なんていつか寝落ちする直前みたいな感じだな。

第1話

「ブレイクうー　ブレイクうー　ふーふふふふーふふー
解体いー　解体いー　ふーふふふふーふふー」

おっと、初めましてだな。俺の名前はグラント、整備士みたいな事もやってるヤツだ。宜しくな

「あー、何か違えんだよなあ……………」

「親方あー何を唸ってんすかあー手伝って下さいよおー」

あの騒がしいバカは弟子のミリンダだ。ある日突然俺の所に転がり込んできて働かせて欲しいって言ってきやがったヤツだ。

まったく……………俺は湯屋で働くスパイダージジイじゃねーんだぞ

「忙しいから無理だな。自分でヤレ！どうせお前が使うんだろ？」

「そりゃそーっすけど……………アアーコンチクショーー！」

言葉遣いが汚い……………あんなんでも一応女なんだから、悪態つきながらパーツ蹴り飛ばすんじゃねー！っても聞かねえから諦めたけどよ……………
ちなみにあのアホ、顔はそれなりに整ってる。ただ無表情になられると怖いってーのと胸がねーってーのがマイナスだが……………

「親方がウチでいやらしいこと考えてる！おまわりさん！この人デエースー！」

「ちょ　おまつー！止める……………てか、そんな事考えてねーからな。

先ずはそのまな板ごとにかしてからこい」

「セクハラだー！セクハラ！そもそもまな板の何が悪いんですか！あんな脂肪の塊ぶら下げて…ブツブツ…ッハ！いいんですよ別に胸何かなくても！ブラストに乗る時に締め付けられて苦しいとか無いですし…グスン」

自分で言った事にダメージ受けてどうすんだよ…まあ、おいとくが…因みにあのアホはニユード耐性保持者だ。通称ボーダーってヤツだな。自分のブラストも持つてる…てか、造った。

「で、バラしてるつつうこたあ、欲しがってたパーツがあったんか？確か腕部パーツだよな？」

機体パーツは同じブランド、同じシリーズで組むとセットボーナスというものがつく。

よって大抵のボーダーはセットボーナスが発動するようにどこかからのシリーズで機体構成するのだが、たまにコイツみたいにセットボーナスなんぞをがん無視した機体構成をするヤツらがいる。

「そーですよあー…ついに、ついに見つけたんですよコレを！使えそうなコレを見つけるのに本当に苦労しましたよ。」

そう言って頬ずりを始めるアホ…はっきり言って気持ち悪いおっと、そんなことよりあのパーツだな！あの機体パーツ名はシユライク 型…装甲や反動制御を犠牲にリロードや武器変更能力の早さ、パーツ自体の軽さを得たモノだ。

「で？それでお前の機体は完成なのか？」

「とりあえずはね。でも、日々企業が新しい機体、新しいパーツを生

み出すこのご時世において今の最良がこれからもそうであるとは限らない！つてのは親方の口癖でしょ？」

「ちげえねえ！」

ははっ！流石は俺の弟子だな、わかっつてやがる。

だけど、それが全てじゃねえ！つてーのは後々わかるか……

「それじゃあ、親方！」

「おっ！」

「いざ、クーガーの樂園に！」

はじめまして、こんにちわ。どうもキサラギ＝アスナです！

御存知かもしれませんが、ウチは今話題の転生系主人公をやっております。

……え？御存知ない？そもそも主人公ですらない？……ハハハ、ナニツイッテイルノデスカーハハハ……orz

take2

はじめまして。キサラギ＝アスナでぶ。いひゃい……

take3

はじめまして。キサラギ＝ry

というわけで本体(?)は別世界で寝てる!ってわけじゃないんですよ……もう、わけわかんない……っていうのは作者で、私は神(笑)から説明受けたんでだいじょぶなんですけどね。以下ざっくばらん

ISの世界線のウチが寝る

意識だけが覚醒

肉体を持ってボーダーブレイクの世界に現る!

ってな感じですね……はい、細部とか超あいまいみーです。作り込まれてません。神(笑)曰く

『細かく作りすぎると、些細なミスで崩れるんじゃないよ……』とのこと
で、作者曰く

『とうとうとうるー観て勉強するからしばし待てー!』とのことでした。

巫山戯てますね。こいつあしめてやらなあかんぜよー!

と、いろいろですが、ここでは私ミリンダと名乗って生きております。

そしてどうやら私のこころでの目的は四条重工とTSUMOIインダストリーにて活動し、同2社へ貢献しつつ世界を見定めよー!ということらしいです。

つまりは、この2つの会社をメインに活動しつつ自由に過ごせ。とのことだと思っちゃんよ。

よって、自分の目標は地盤をしっかりとらせ、親方の所から自立、又は、分裂(?)し、2社での地位を得ることかな。

「親方ア！今から行くト」の資料投げて下さい。」

「ほらよっ…」

そう言って投げられたPDAの画面にはT S U M O Iについての
大まかなことが記されており、いたるところにリンクがあった。

社名・T S U M O I インダストリ

社長・一百万億一 つもいはじめ

日本に本社を置いており、エイオース建造の際にG R Fに機
器を供給。大気汚染後は、ニユード採掘用機械 プラスト・
ウォーカー「ミュール」を開発。

汎用型のプラスト・ランナー「クーガー 型」も大ヒットし、現在
の市場競争のきっかけを作る。

同時に、P M Cのマグメルにも供給された結果として、ニユードを
めぐる戦闘が激化し加速した要因も作ってしまった。

後発のプラストメーカーのA E社長・ベンノ社にシェアを奪われが
ちで、クーガーに変わる新たなプラスト開発が必要とされていた。

引用・ついき

…

…

……おい……いね……

「ウィキへ デイアじゃねえーか！」

「うるせえぞ」のアホんだらあ！」

いやいや、だってこれ……ういきサンじゃねえですか！この世界にあったんかよ……てか、営業しに行く会社の情報をWikiで調べるとか……

「資料漁んのもいいけど、もう見えてきてんぞ！着く前に機体チェック済ましとけ！」

きたきたきたー！遂にTSUMOIに着くんですよー！クーガの楽園！普通に特化したオールラウンダーの巣窟！ブラスト・ランナーの始祖！ああ……想像するだけदनにかキワシタワー！

「っじゃなくて！チェックチェック」

システム通常モード……パーツチェック開始……

頭部パーツ・ディスクスプロト……ok

腕部パーツ・シユライク 型……ok

胴部パーツ・エッジ……ok

脚部パーツ・エンフォーサー 型……ok

各部パーツ動作確認……完了

FCS……チェック……ok

各部ニードモーター動作確認開始……回転数上昇……ok

チェック完了……修正点無し

ー続いてウェポンチェックを開始しますか？『Yes』・『No』

「ウチは面倒が嫌いなんだ！……よってNO」

ーウェポンチェックをしないのですか？『Yes』・『No』

「……いいなあおい」

ー！」「いめんなわい……

……ん？ナニコレエー（＾p＾）

ナニコレエー

ナニコレエー

……

「通行証を……はい、ありがとうございます。」

目に刺さる人工灯の明かり、かすかに香るオイル臭、そして周りの人が着ている宇宙服みたいな防護服……あれは確か、耐ニユード防護服……ん？もしかして……「さっさと起きろ、阿呆！」

「アイアイさー!!」

閉ざされた意識から抜けその場所はT S U M O Iだった……